

富大比較文学

第二期 第一集

富山大学人文学部近代文学ゼミ編集・刊行

2018

- 北條秀司 「王将」論——阪田三吉表象の諸問題——……………稲本 力信 (1)
- 松村みね子と「鷹の井戸」……………小田 凜乃 (23)
- 三浦哲朗の書く地方と都会——「盆土産を中心として」……………工藤 誠士 (44)
- 田部重治 「薬師岳と有峰」に見る表現意識……………桑平 拓磨 (55)
- 日本文学における〈取り替えもの〉の物語構造……………白鳥 公樹 (76)
——「とりかへばや物語」から「転校生」「君の名は。」まで——
- 児童文学史における小泉八雲の再話作品の位置……………濱野 美典 (107)
- 小川未明 「赤い蠟燭と人魚」における神様……………林 良樹 (134)
——『竹取物語』との関係を中心に——
- 逆行する時間の流れ——泉鏡花「桜心中」から見る桜の表象——……………松浦 祥哉 (148)
- 赤川次郎『三毛猫ホームズの推理』——三毛猫ホームズの視点——……………吉岡 未奈美 (164)

Ⅱ 編集後記 Ⅱ

富山大学人文学部比較文化分野の廃止をもって一旦休刊となった『富大比較文学』ですが、同分野で行われてきた日本近代文学研究の伝統を引き継ぐべく、金子幸代先生のお許しのもと、人文学部日本文学分野近代文学ゼミで、第二期『富大比較文学』を刊行する運びとなりました。

第二期『富大比較文学』の記念すべき第一集には、二〇一七年度卒業生の稲本力信さん、小田凜乃さん、工藤誠士さん、桑平拓磨さん、白鳥公樹さん、濱野美典さん、林良樹さん、松浦祥哉さん、吉岡未奈美さんの論文を掲載することになりました。寄稿いただいた皆さんに感謝申し上げます。

二〇一四年度まで、富山大学人文学部で主に日本文学を研究する教員は、日本文学分野に四名、比較文化分野に一名と、計五名の充実した陣容を誇っていました。昨今の大学改革により、比較文化分野は廃止、日本文学分野も縮小の流れとなり、二〇一七年度は教員三名、さらに二〇一八年度からは呉羽長先生が退職されて、教員二名となることが決定しています。魅力的な教育研究を展開して来られ、学生からも教員からも慕われてきた先生を定年でお見送りすることは当分野にとって大きな損失で、多様な教員の指導のもとで近代から古典までの幅広い知見を学びながら研究を遂行することはこれまでに比べ難しくなっていますが、日本文学を学ぼうと集まっている学生諸君の関心と熱意は、決して以前に劣るものではありません。

ん。近代文学ゼミでは、研究の文化は年々盛んになり、交わされる議論も日々活発なものになっていきます。

『富大比較文学』のバックナンバーを読んで刺激を受け、自身も掲載を目指して研鑽するという、これまで人文学部で培われてきた日本近代文学研究の良き伝統は、そうしたゼミメンバーの研究への熱意を炙りあるものとするための、何よりの基盤となるものです。

今号に寄せられた論文も、荒削りながら、それぞれ新見を示して世に問おうとする意欲に満ちたものとなっています。

第二期『富大比較文学』が、研究面でのつながりを広げ、深める一助になることを願ってやみません。今後の発展に向けて、さらに精進して参りたいと存じますので、ぜひご意見、ご批評をお寄せいただけますすれば幸いです。

(小谷瑛輔)

富大比較文学 第二期 第一集

発行日 二〇一八年三月二三日

編集人 富山大学人文学部近代文学ゼミ

発行人 富山大学人文学部近代文学ゼミ

代表 小谷瑛輔

発行所 富山大学人文学部小谷研究室

富山県富山市五福三一九〇

〇七六一四四五―六二〇〇(研究室 直)

kotani@hmt.u-tovama.ac.jp